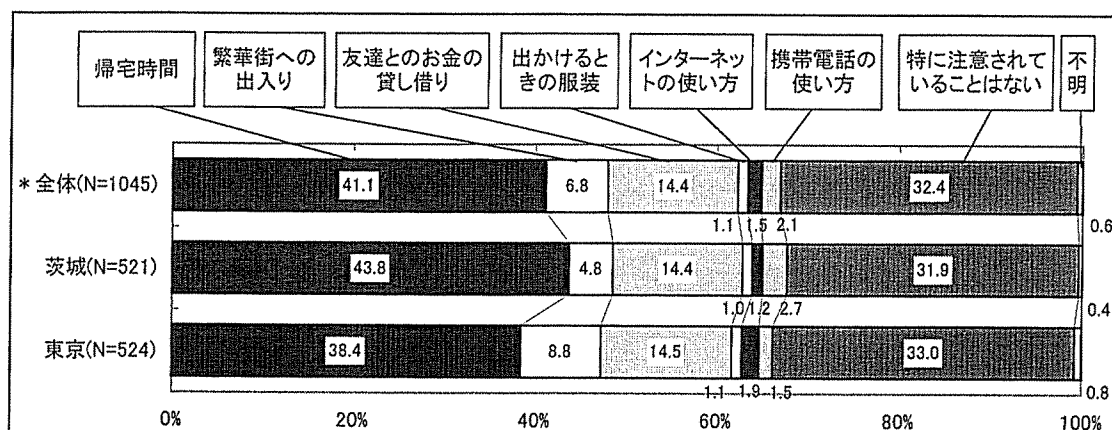


### (3) 親との関係

#### ①親による防犯指導

(図表 58) 親による防犯指導



(図表 59) 親による防犯指導別恥の意識

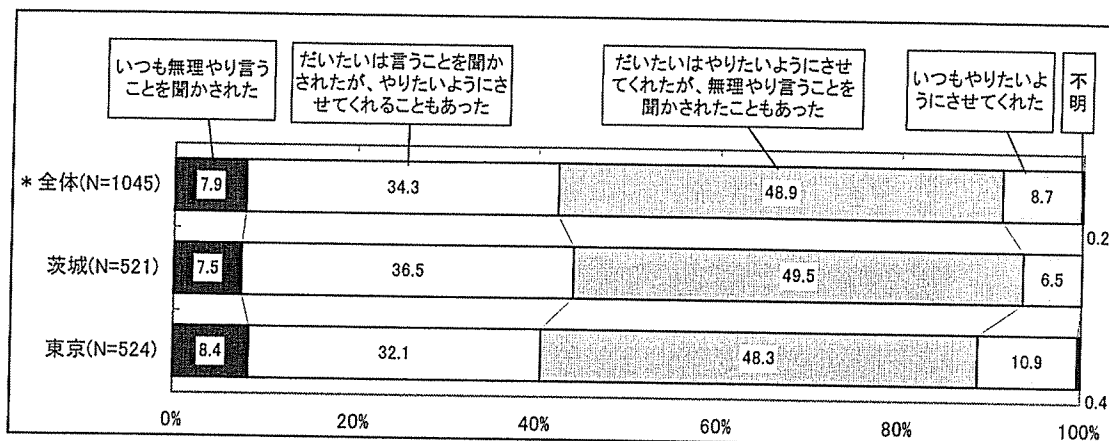
	法に違反	親に背反	先生に背反	友達を裏切る	決意を不実行	恥なし	不明	総計
帰宅時間	12.4%	0.0%	0.7%	50.3%	30.8%	5.4%	0.5%	100.0%
繁華街	11.3%	2.8%	1.4%	46.5%	28.2%	8.5%	1.4%	100.0%
金銭貸借	9.3%	0.7%	1.3%	53.0%	31.8%	4.0%	0.0%	100.0%
外出服装	9.1%	9.1%	0.0%	54.5%	18.2%	9.1%	0.0%	100.0%
携帯電話	6.3%	0.0%	0.0%	68.8%	25.0%	0.0%	0.0%	100.0%
インターネット	8.6%	0.9%	0.0%	48.7%	33.3%	8.0%	0.6%	100.0%
注意なし	4.5%	0.0%	0.0%	54.5%	31.8%	9.1%	0.0%	100.0%
不明	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	100.0%
総計	10.2%	0.7%	0.6%	50.2%	31.4%	6.2%	0.7%	100.0%

「帰宅時間」について注意される高校生が最も多いが、「特に注意されていることはない」と答えた高校生も三人に一人いることは問題であろう。

「特に注意されていない」と答えた高校生では、「どれも恥ずかしいとは思わない」と答えた割合が高く、ここから、親の放任→羞恥心・罪悪感の低下、という関連性を肯定できるかもしれない。

## ②親による強制度

(図表 60) 親による強制度



(図表 61) 親による強制度別パソコンによるインターネット利用の目的

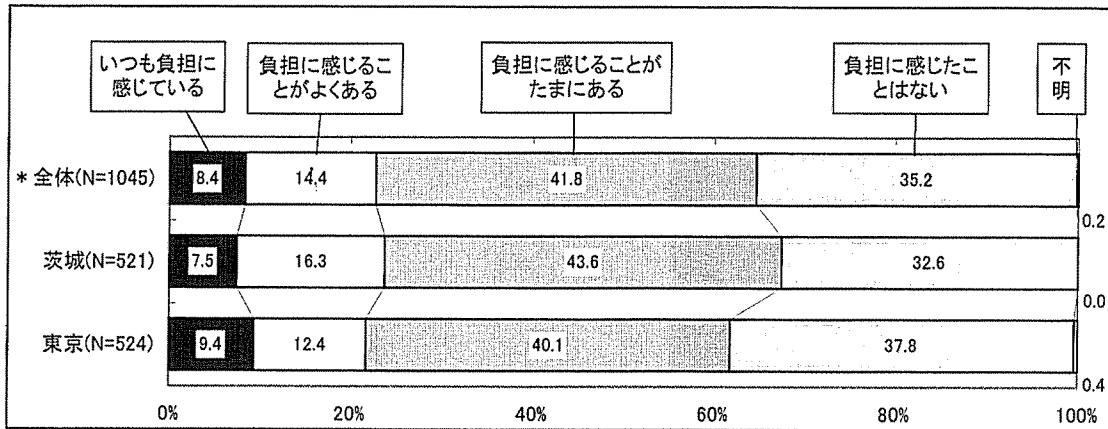
	メール	チャット	掲示板	ホームページ	メールマガジン	音楽・映像	不明	総計
強制が全	1.2%	3.6%	4.8%	12.0%	3.6%	2.4%	72.3%	100.0%
強制が多	4.2%	0.0%	1.1%	9.8%	2.8%	1.7%	80.4%	100.0%
強制が少	1.6%	1.0%	1.4%	12.9%	1.8%	1.0%	80.4%	100.0%
自由が全	2.2%	1.1%	0.0%	4.4%	2.2%	4.4%	85.7%	100.0%
不明	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
総計	2.5%	0.9%	1.4%	11.0%	2.3%	1.6%	80.3%	100.0%

完全に強制的だった親と完全に放任していた親が約 1 割いるが、残りの親は、両者の中間であった。

「いつも無理やり言うことを聞かされた」と答えた高校生で、チャットや掲示板の利用率が最も高い。このグループは、家では自由なコミュニケーションができないために、インターネット上に、自由なコミュニケーションを求めているのであろうか。

### ③親に対する負担意識

(図表 62) 親に対する負担意識



(図表 63) 親に対する負担意識別テレビの暴力シーン

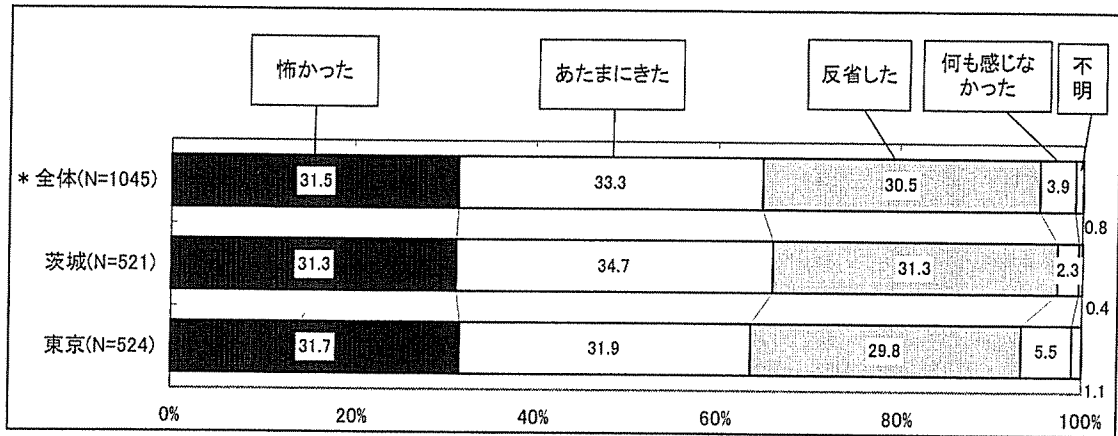
	見たい	見たくない	まねしたい	思わない	その他	不明	総計
負担感が全	11.4%	20.5%	5.7%	48.9%	13.6%	0.0%	100.0%
負担感が多	8.0%	22.7%	2.7%	60.0%	6.0%	0.7%	100.0%
負担感が少	6.4%	27.2%	1.4%	55.4%	9.6%	0.0%	100.0%
負担感なし	6.0%	22.8%	1.6%	54.9%	13.9%	0.8%	100.0%
不明	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
総計	6.9%	24.4%	2.0%	55.4%	10.9%	0.4%	100.0%

親の期待については、およそ四人に一人が負担に感じていることが分かった。

「いつも負担に感じている」高校生で、テレビの暴力シーンを「もっと見たいと思った」や「自分もまねしたくなった」と答えた割合が最も高い。この割合が次に高いのは、「負担を感じることもよくある」と答えた高校生である。したがって、親の期待を負担に感じれば感じるほど、テレビの暴力シーンを求めがちになるといえる。

#### ④親による体罰に対する意識

(図表 64) 親による体罰に対する意識



(図表 65) 親による体罰に対する意識別テレビの暴力シーン

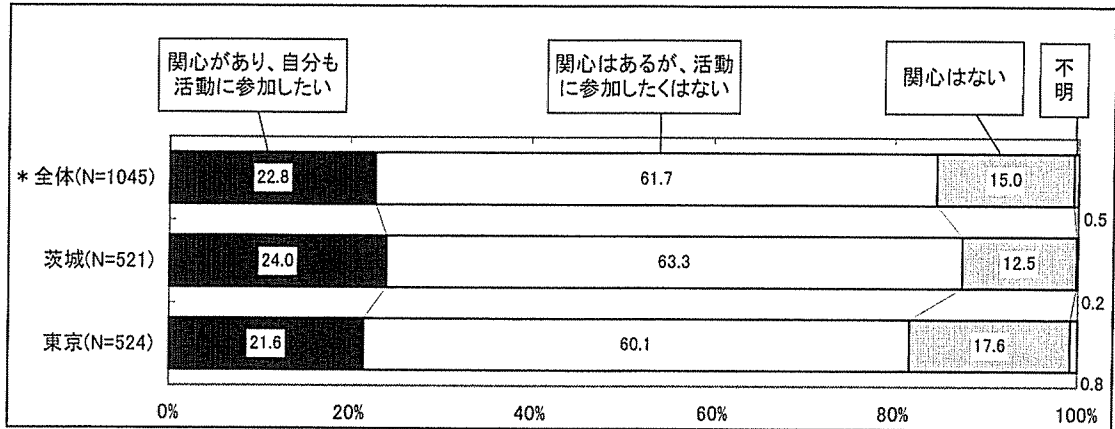
	見たい	見たくない	まねしたい	思わない	その他	不明	総計
恐怖	7.3%	24.3%	1.2%	56.5%	10.3%	0.3%	100.0%
怒り	8.6%	23.0%	2.9%	54.0%	11.5%	0.0%	100.0%
反省	5.3%	28.5%	1.3%	54.2%	10.3%	0.3%	100.0%
無感情	2.4%	7.3%	7.3%	73.2%	9.8%	0.0%	100.0%
不明	0.0%	12.5%	0.0%	25.0%	37.5%	25.0%	100.0%
総計	6.9%	24.4%	2.0%	55.4%	10.9%	0.4%	100.0%

子供のときに親にしかられたときの気持ちについては、「怖かった」「あたまにきた」「あたまにきた」「反省した」の三つで等分に分かれた。

「あたまにきた」と答えた高校生で、テレビの暴力シーンを「もっと見たいと思った」や「自分もまねしなくなった」と答えた割合が最も高い。しかし、「もっと見たいと思った」割合が、「自分もまねしなくなった」割合よりも5ポイント以上高いので、このグループは、怒りを静めるのに、テレビの暴力シーンを利用していただけと考えられる。問題なのは、子供のときに親にしかられたときに「何も感じなかった」と答えた高校生である。というのは、このグループでは、「自分もまねしなくなった」割合が、「もっと見たいと思った」割合よりも5ポイント高いからである。

⑤児童虐待の防止策

(図表 66) 児童虐待の防止策に対する関心



(図表 67) 児童虐待の防止策に対する関心別テレビの暴力シーン

	見たい	見たくない	まねしたい	思わない	その他	不明	総計
参加希望	5.5%	36.6%	1.7%	42.0%	14.3%	0.0%	100.0%
参加不希望	7.0%	23.9%	2.3%	57.8%	8.5%	0.5%	100.0%
無関心	8.9%	8.3%	1.3%	66.9%	14.0%	0.6%	100.0%
不明	0.0%	20.0%	0.0%	20.0%	60.0%	0.0%	100.0%
総計	6.9%	24.4%	2.0%	55.4%	10.9%	0.4%	100.0%

児童虐待の防止活動については、不参加希望が過半数を占めるものの、参加希望の方が、無関心よりも割合が高い。

児童虐待の防止活動について「関心はない」と答えた高校生で、テレビの暴力シーンについて「何も思わなかった」と答えた割合が最も高い。このグループには、何事にも無関心・無感動な高校生が多く含まれると思われる。